

チャイムのない学校

五日市南中学校区内



第51号平成23年10月21日
 広島市立五日市南中学校
 〒731-5135 佐伯区海老園4-2-21
 TEL082-923-5601 FAX082-923-9828

校長室だより

負けたときは、負けを受け入れる。プレッシャーはある。それは、よりうまくなりたいというプレッシャーだ。逆境を受け入れることも、人生の一部だ。

～硬式テニス世界チャンピオン ラファエル・ナダル選手言葉～

10月11日(火)後期始業式があり、次のような話をしました。

「おはようございます。今日から、後期の授業が始まります。授業は一生懸命、静かに受けてください。さて、先日の休みに、ゴロツと横になり、家でテレビを見ていました。

ラファエル・ナダルというスポーツ選手のドキュメント番組をやっていました。聞いたことのある名前だと思って、テレビを見ていました。硬式テニスの世界チャンピオンでした。その選手の努力すれば順調に伸びてきた時期と努力をしても報われないケガの時期家庭における不幸な時期の様子を、テレビでやっていました。ラファエル・ナダル選手は、次のような言葉をテレビの中で語っていました。



生徒たちの涙やせり目が笑いを誘った。

(西島 7162)

『負けたときは、負けを受け入れる。プレッシャーはある。それは、よりうまくなりたいというプレッシャーだ。逆境を受け入れることも人生の一部だ。苦しみながらも楽しむことを見つかるんだ。長い目で見てみると、苦しむことも素晴らしいことなんだ。』

中学3年生にとっては、部活動も終わり、文化祭も終わり、これから本格的に自分たちの進路に向けて、勉強し努力していく時期が始まりました。うまいかない時も、あるでしょう。やれどもやれども、努力しても努力しても、うまくいかないこともあるでしょう。その時には、このラファエル・ナダル選手の言葉を思い出してみてください。

中学2年生にとっては、新人戦も始まり、生徒会や勉強も本格的に始まっていきます。よく努力してく

狂言会で共演
 生徒14人狂役
 五日市南中学校6公演
 (佐伯区)広島市立五日市南中学校(広島市佐伯区海老園4丁目)で3日、全校生徒の見守る中で14人の生徒が三宅狂言会と共に、キ

ノ「役を演じた。本来の文化や芸術に振られたり番の言葉や動きをしっかりと見たりして、コミュニケーション能力をはぐくむのが狙い。」
 体育館に掲げ棒や橋懸かりなどで能舞台を

再現し、生徒を驚かせた。狂言(くわげん)は屋敷に生えた竹を山伏が退治しようとして遊ばされるストーリー。狂言の生徒たちは衣装に習って手作り個性あふれる面をかぶった。最初に1人の生徒が驚かし、その不気味な面に生徒からは笑い声が飛び交った。写を追い払うはずの山伏の祈りで一人また一人と増えていく狂言の生徒だ。くらくらと回

狂言から狂言まで、面を驚かし、狂言の笑顔を誇った。狂言の生徒は、舞台の生徒でいっぱいになり、ラッシュには「ほいほい」という声をあげ、掛け声に涙を流した。狂言の狂言者「じつとして狂言は観ている以上に難しい。上手だったと褒めたかった。夏休みに1度の練習と平日のリハーサル本番に臨んだ。観望した。最初は面白くないそうだったけど、楽しかった」とうれし

ださい。秋から特に、冬にかけてが、本格的に鍛え、育てる時期です。これがラファエル・ナダル選手への参考になるようにしてください。中学1年生にとっては、まだこの言葉は早いでしょう。

これから、10月25日(火)～27日(木)の野外活動に向けても27日(木)の野外活動に力をつけて、11月の校長面談に臨んでください。その時に、語るかもしれません。言葉の意義が少し見えてくるかもしれません。

最後に、ラファエル・ナダルの言葉を繰り返しておきます。

『負けたときは、負けを受け入れる。プレッシャーはある。それは、よりうまくなりたいというプレッシャーだ。逆境を受け入れることも人生の一部だ。苦しみながらも楽しむことを見つかるんだ。長い目で見てみると、苦しむことも素晴らしいことなんだ。』

この後期も、前期と同じように学びながら生きてください。さらに、生きることから学んでください。そして学生として生活を送ってください。」

学び育ち豊かになっていた中学校3年生の姿

～文化祭10月6日佐伯区民文化センター
 テーマ『輝け！達成の笑顔と感動の涙』～

成長した姿を3年生の学年合唱『大地讃頌(だいちさんしょう)』で見せてもらいました。各学級の合唱も、感激でした。

3年生は、毎年素晴らしいと思うが、1年の時より2年の時そして今年と自分たちの殻を破り成長をしたと思います。2年生も、賞をもらった1組・3組をはじめ、1年の時より心身共に大きく成長していたことが素晴らしい。3日後にあった野球部新人戦においても素晴らしい試合を行っていた。

1年生は、体育祭の時に地域の方からよく動き、きびきびしていたと誉められていたが、文化祭においても歴代の1年生よりも、指揮者を始め、豊かに合唱表現ができていたことが素晴らしい。これも、音楽科(いや音楽家)小間先生の合唱における素晴らしい情熱や吹奏楽部がリーダーとなって取り組んできた生徒たちの成果でしょう。これからの、『守・破・離』の教えに従って、縁の下の力持ちとして支えてくれている生徒会や先生・保護者・地域の方に感謝しながら成長をしてください。

